



札幌市サッカースポーツ少年団連盟 広報紙
2019. 10. 19 NO.11

きずな

トラック協会杯第31回全道U-11サッカー大会

9月14日～16日の3日間、札幌市東区の札幌サッカーアミューズメントパークと東雁来公園グラウンドにおいて、本大会が開催されました。各地区の予選を勝ち抜いた24チームが集まり、3チームずつ8ブロックに分かれての予選リーグ、そして上位16チームによる決勝トーナメントを行いました。

開会式では、元北海道コンサドーレ札幌選手の砂川誠さんから激励のメッセージをいただき、リスペクトのビッグフラッグと共に全選手で集合写真を撮影しました。

選手、指導者、審判、観客、運営スタッフの全ての関係者がフェアプレーとリスペクトを誓ってスタートした大会は、白熱した好ゲームが多く、札幌代表も大活躍で素晴らしいものとなりました。接戦を勝ち抜き、最終日のベスト4に進出したのは、LIV.FOOTBALLCLUB

U-12（札幌地区）、北海道コンサドーレ東川U-12（旭川地区代表）、SSS 札幌サッカースクール（札幌地区）、石狩FOOTBALLCLUB U-12レッド（札幌地区）の4チーム。以下に決勝、準決勝の様子をレポートします。



決勝 9月16日 AM10:30 SSAP Aコート
北海道コンサドーレ東川U-12 VS SSS札幌サッカースクール
1-0 (前半0-0 後半0-0 延前0-0 延後1-0)



SSSのキックオフ。開始早々チャンスを作ったコンサ東川⑦のシュートはゴールならず。ファーストシュートは早かったが、このシュート以降、どちらのチームも我慢の時間が続く。バックでボールを正確につなぎながら相手DFの背後を狙うコンサ東川に対し、SSSはセンターバック⑤を中心にコンサの前線へのボールをことごとくはね返す。どちらのチームも中盤のプレスが激しく、パスを2本以上つなげせない、素晴らしい守備で競い合

った。コンサ東川は左サイドバック③が積極的に攻撃参加し、④、⑪とのダイレクトパスでSSSの守備をこじ開けようとするが、SSS⑤と⑭がそれをさせない。9分、コンサ東川③の正確なセンタリングもSSS⑤がクリア。11分、コンサ⑬と⑪のコンビネーションでペナルティエリアに侵入するものの、これもSSS⑤がストップ。さらにはコンサ東川③が左サイドを駆け上がりセンタリングをあげたが、やはりSSS⑤がストップ。このあ



たりから霧雨が降り始め、ピッチもぬれてボールのスピードが速くなり始めたが、どちらも守備のミスがなく、決定機を生み出せないまま、時間が過ぎていった。SSSの前半唯一のシュートは14分、⑭のドリブルから獲得したコーナーキックを⑤がシュート。しかしこれは大きく枠を外れ、前半をスコアレスで終えた。

ハーフタイム、コンサ東川サポーターからは、選手たちを鼓舞する応援歌や手拍子が聞こえてくる。両ベンチ

では、選手同士が声を掛け合ってポジショニングやマーク、攻撃の連携について話し合っていた。どちらの指導者も、それを見守るように少し距離を置いていて、選手たちへの信頼がうかがえた。選手たちに自主性、創造性が育まれ、チームワークがつけられる、素晴らしい光景であった。

後半の立ち上がりは前半の流れそのままに、コンサ⑦と⑬の連携をSSS⑤が阻止。20分にはコンサ⑦のドリブル突破をSSS⑤とGK①がクリア。コンサ⑦のコーナーキックは、SSS⑭がヘッドでクリア。SSSバック陣の活躍が光っていた。そして、SSSに流れが傾き始めたのは21分から。コーナーキック2本続けた後は、交代で入った⑨を中心にシュートチャンスを作る回数が増えていった。ここで存在感を示したのは、コンサ東川のキャプテンマークを巻くセンターバックの①。SSSの攻撃の芽を摘むだけでなく、28分にはピッチ中央付近で得た直接FKをロングシュート。惜しくもゴールにはならなかったが、会場を沸かし、相手を脅かす存在となっていた。しかし、両チーム大きなチャンスないまま後半終了。前後半5分ずつの延長戦に突入した。



延長に入り、コンサ東川が①のポジションを中盤左へ変えたことで、試合が動き始めた。コンサは①⑦⑬⑪のパスがつながり始め、SSS⑤が追いつけない場面が出てきた。一方のSSSもコンサ①が抜けたエリアに侵入する場面が増え、⑩との連携で⑧がミドルシュートを放つなど、チャンスを作り出せるようになってきた。



いよいよ最後の5分となる延長の後半。チャンスを作ったのはコンサ東川の⑦と①。⑦のパスを受けた①の左足シュートはキーパー正面。さらに9分にはコンサ⑦が倒され、ゴール正面絶好の位置で直接FK。コンサ①の正確で強烈なシュートは枠をとらえたが、SSSのGK①がスーパーセーブでゴールを許さない。しかし、そのセーブの後のコーナーキック。コンサ⑦の蹴ったボールは

エリア中央で待つ①へ。体を倒しながら見事に合わせた①のボレーシュートはSSS⑤もGK①も防ぐことができず、SSSが守ってきたゴールに突き刺さった。

残り時間わずかとなる中、SSS⑧がドリブル突破を仕掛けると、たまらずコンサ③がファウル、イエローカードが提示された。おそらくラストプレーになるであろうこの直接FKは、SSS⑤のロングシュート。しかし、ゴールには至らず、1-0。北海道コンサドーレ東川の勝利でトラック協会杯は幕を閉じた。



準決勝 9月16日9:00 SSAP Aコート

LIV.FOOTBALL CLUB U-12 VS 北海道コンサドーレ東川U-12

1-3 (前半1-0 後半0-3)

LIVのキックオフで始まった前半は、終始LIV.ペースで試合が進む。4分、31番→55番→44番のパス交換で左サイドを崩し、ペナルティエリア外から44番の強烈なシュートはジャンプしたキーパーの手をかすめ、ゴールに吸い込まれLIV.が先制点を挙げた。11分にはコーナーから、12分には中央からの直接FKでシュート



を放つが、GKの正面をつき、得点には至らない。一方のコンサ東川は、中央を丁寧につないで左右ワイドに展開し、LIV.の激しいプレスに苦戦しながらも徐々にペースを掴んでいるように見えた。LIV.が多くのチャンスをつくった中で前半が終了となった。

後半に入ると一転、コンサ東川ペースの展開となる。17分、右サイドドリブルで崩すと中央を経由し、左サイドを駆け上がった4番へパス。4番のシュートはGKに阻まれる。20分にはコンサ7番のコーナーキックを16番がヘディングシュート。これは惜しくも枠をとらえない。22分には、



右サイド7番のドリブルからセンタリングで13番のダイレクトシュート。これもキーパーがキャッチするが、左右から繰り出される攻撃にLIV.の対応が遅れる場面が見られるようになった。そして迎えた26分、遂に生まれた同点ゴールは中央付近からのフリーキック。1番のキックを13番が合わせ、同点となった。さらに27分、7番のコーナーキックを1番が合わせヘディングシュート。逆転のゴールとなった。コンサの波状攻撃にLIV.も懸命についていくが、終了間際の30分。左からのクロスでこぼれたボールを13番が拾ってシュート。ダメ押しの3点目を挙げ、コンサドーレ東川が決勝へと駒を進めた。



準決勝 9月16日9:00 SSAP Bコート
石狩 FOOTBALL CLUB U-12 レッド VS SSS 札幌サッカースクール
0-1 (前半0-1 後半0-0)



SSS のキックオフ。開始直後から両チーム共にすばや
い展開でチャンスをつくりだした。2分、SSS⑦のシュ
ートは石狩 GK がナイスセーブ。しかし3分、⑤から⑨
へとパスがつながり中央やや左からのシュート。これが
キーパーをはじいて先制ゴールとなった。直後の4分、
石狩はゴール正面絶好の位置で直接 FK。⑧の正確なキ

ックは惜しくもバーをたたき、さらに詰めた④がヘディン
グシュート。しかし、惜しくも枠を外れた。
ここまでの激しい攻防から、徐々に両チームの守備が機
能し始め、どちらも決定的なチャンスをつくれない時間が
続いた。両チームともに丁寧にバックラインでつなぎ、フ
ォワードへ正確なボールを入れる。フォワードは多彩なフ



ァーストタッチで相手
DF を苦しめるが、DF
と GK がすばやいカバーリングで対応し、シュートを打
たせない。両チームの素晴らしい守備が続く中、前半が終
了した。

後半も前半同様の流れが続く。リードする SSS は⑩の
ボールキープから
FW③を走らせる

ボールで打開を図るが、石狩は⑬⑩⑨と GK①の粘
り強いディフェンスで対応する。24分、SSS⑦の
シュートは GK 正面。さらに⑩のパスを受けた⑩の
シュートはサイドネット。28分の⑦のシュートは
石狩 GK①のナイスセーブ。30分、SSS⑦はイン
ターセプトから自らシュートを放つがこれも GK が
キャッチ。両チームの素晴らしいディフェンスが光
った準決勝は、1-0で SSS が勝利した。

